

## 令和7年度 第2回川崎市地域公共交通活性化協議会

日時：令和8年3月23日（月）10時00分～11時00分

会場：川崎市役所本庁舎 2階 203会議室

出席者（敬称略）：

- |                                |                   |
|--------------------------------|-------------------|
| ・東海大学建築都市学部土木工学科 教授            | 梶田 佳孝             |
| ・名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所特任准教授  | 有吉 亮              |
| ・東日本旅客鉄道株式会社 横浜支社 企画総務部 企画部長   | 関 啓充 (代理：国分)      |
| ・京王電鉄株式会社 鉄道事業本部 計画管理部長        | 二羽 信介 (WEB代理：濁澤)  |
| ・小田急電鉄株式会社 交通サービス事業本部 交通企画部長   | 宮原 賢一 (代理：八山)     |
| ・東急電鉄株式会社 執行役員 経営戦略統括部長        | 森 智雄 (代理：五島)      |
| ・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 鉄道統括部長        | 四宮 浩              |
| ・神奈川県バス協会 専務理事                 | 関上 義明 (WEB出席)     |
| ・川崎鶴見臨港バス株式会社取締役（運輸部担当）        | 岩田 貴 (代理：山田)      |
| ・東急バス株式会社 運輸事業部 副事業部長          | 依田 修 (代理：石)       |
| ・小田急バス株式会社 バス事業本部 計画部長         | 宮下 誠 (代理：芳賀)      |
| ・神奈川中央交通株式会社 運輸計画部長            | 井手 正一郎 (WEB代理：橋山) |
| ・横浜市交通局 自動車本部長                 | 亀本 武伸 (WEB代理：諏訪)  |
| ・川崎市交通局 企画管理部長                 | 小沢 正勝 (WEB代理：徳原)  |
| ・神奈川県タクシー協会川崎支部 事務局長           | 稲田 正治             |
| ・神奈川県個人タクシー協会副会長               | 橋立 匡              |
| ・川崎市建設緑政局 総務部長                 | 櫻井 雅幸             |
| ・川崎市港湾局 港湾経営部 担当理事             | 木村 俊介 (WEB代理：三枝)  |
| ・神奈川県警察本部 交通部 交通規制課 都市交通対策室長   | 平田 修 (WEB代理：安藤)   |
| ・市民委員                          | 小俣 博司             |
| ・川崎市全町内会連合会 理事                 | 川島 要子             |
| ・国土交通省 関東運輸局 神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官 | 森下 文章 (WEB出席)     |
| ・川崎市健康福祉局 長寿社会部長               | 下浦 健 (代理：芦川)      |
| ・川崎市まちづくり局 交通政策室長              | 塚田 雄也             |

欠席者（敬称略）：

- |       |       |
|-------|-------|
| ・市民委員 | 中野 絢斗 |
|-------|-------|

次第

1. 川崎市地域公共交通計画（改定案）について
2. 川崎市地域公共交通計画の年次評価について
3. その他  
（質疑応答）

### 【配布資料】

- 1 出席者名簿・座席表
- 2 川崎市地域公共交通活性化協議会設置要綱
- 3 川崎市地域公共交通活性化協議会資料
- 4 川崎市地域公共交通計画（改定案）

## 【議事要旨】

1 川崎市地域公共交通計画（改定案）について

2 川崎市地域公共交通計画の年次評価について

◎ 上記2項目について、事務局より資料に基づき説明を行った。

○梶田会長

それぞれについて、意見があれば伺いたい。パブリックコメントは何件意見があったか。

○事務局

合計で25件のご意見をいただいた。

内容としては、地域公共交通の今の現状についてご理解いただけている方が多かったというところがあり、ありがたいご意見をいただいた。

交通環境が変化していく中で、「地域として率先して、自分たちがこういうことをやっていきたいのだが、どう進めたらいいか」というような、具体的でかつ、交通環境の維持に前向きなご意見もいただいている。我々としてはそういったご意見を踏まえ、地域の方の声を伺いながらこの計画に位置づける取組を進めていきたいと思っているところである。

○梶田会長

のりものフェスタでのアンケートでの意見はポジティブなものが多かったとのことだが、ネガティブなものでは何かあったか。

○事務局

今回アンケートを取る際に少し工夫しており、最初に「川崎の交通についてどのように感じているか」というざっくりばらんな質問をし、ちょっと不便になったというご意見もいただいている。そのうえで、今ご説明したような現状について、事業者の皆さまのご協力をいただきながら取組を一生懸命進めているということを紹介している。それを踏まえ、最後にもう一度同じ質問をしてみると、「川崎の交通状況について理解できた」という人のパーセンテージが上がっている。また、「自分たちが何をしなければいけないかも理解できた」という人のパーセンテージも上がっているというような結果であった。

ご意見としては厳しいものもあり、真摯に受け止めなければならないと考えているが、我々としてはそういった方にもご理解いただきながら、ポジティブな意見が増えていくと良いと考えている。

○梶田会長

参加者はお子さま連れが多かったか。

○事務局

その通りである。

○有吉委員

パブリックコメントやのりものフェスタのアンケートなどで集まった声をまとめているが、次期計画でも、市民の皆さんがどういう風を感じているかは評価指標としても取り上げておられると思う。今後も、市民の方の声を拾って出てきたものを整理していただき、今市民がどう感じているか、事業の取組により理解がどこに深まって意見がどう変わっていったのかという分析・検証もできると思う。アンケート等の市民の声もモニタリングとして活用するとよいと考える。

また、新計画となり次年度以降は新たな指標で評価を行っていくと思うが、現在の資料構成だと取組と評価が離れており、取組紹介の方を読んでいるときに、取組の結果の資料を前に戻らないと

見えないという感じがあったので、資料構成を工夫していただけると読みやすいと思う。

○事務局

昨年10月の会議の際にもご意見をいただいたが、「利用者の方がどう受け取るか」はすごく重要と考えている。我々の中でも評価指標の大上段に、「川崎市が便利な都市と感じる市民の割合」というものを総論的に置いている。一方で、個々の取組が、地域にとってどう評価されるものかというところは、同じく重要だと考えている。その部分については、取組を進めていく中で、先生方にもアドバイスをいただきながらになると思うが、適切な評価の仕方というところの知恵を出していきたいと思っている。

○有吉委員

前回は申したように市民の実感と数字で示される結果が一致することが望ましいと考える。それを一貫させるというのは難しいが、行政と学識者、活性化協議会と一緒に検討していければと思う。そのため、現在の評価指標にとらわれることなく新しい良い考えがあれば取り入れていけばよいと考える。

○梶田会長

モビリティステーションの実証実験を14箇所実施することだが、設置見込みや今年度の実証で出た課題等あれば伺いたい。

○事務局

モビリティステーションは今年度から試行的に実施した。乗換機能というものに加えてほかにもどのような機能が必要なのか、実際にやってみたらどういう形になるのかを実証した。場所として、一つは川崎市が所有する遊休公共施設を活用した場合どうなるか、もう一つは、公園でやってみた場合どうなるか、という試行をしたところである。

様々なモビリティを集め、移動の選択肢を用意するという部分では、市民の方にも集まっていた。モビリティも単品ではそれぞれ利用いただいたというところは、評価できると考えている。

一方で肝心のハブ機能となるバスから他の交通に乗り換えるというところが、なかなか進まなかった。

今後も様々な場所で市民の皆さまに見てもらいつつ、本質である「どうすれば乗り換えが進むのか」という部分を含めて、今後検証していかなければならないと考えている。様々な場所で様々なパターンがあると思うので、民間の方、交通事業者とも連携させていただきながら、進めていきたい。

○梶田会長

いったん実証は2月で終了しているが、次年度以降も同じ箇所を実証を行うのか。

○事務局

次年度は別の箇所で行うことを考えている。

○有吉委員

モビリティステーションについては、実証実験なので地域と対話的に行うとよいと思う。やってみるうちに地域から意見が出てくると思う。すべての地域に同じスペックを求めているわけではなく、何を求めているかは地域ごとによって変わってくると思う。実証を行ってみて、どのような反響があったのか、ただ乗り継げる機能のみが求められるのか、ただ乗り継ぐだけではなく人々が集まれる機能も求められるのか、などが見えてくる。その結果、標準的な機能として何が必要かが決まってくる。

くと思う。最初は大変だと思うが、様々な地域でコミュニケーションを取りながら、知見を集めていくということを今年度以降も継続してやっていくとよいと思う。

○事務局

おっしゃっていただいた通り、どういった人と連携して、地域の方とどういったルートでつながれば広がるのかというところも関係を築きながらやっていきたい。今年度は2カ所であったが、地域ごとに様々なパターン、様々な方がいると思う。機能としても、交通としての機能が必要なところ、逆にコミュニティ的に人が集まる機能が必要なところなど場所によって異なると思うので、試行錯誤しながら進めていきたい。

○有吉委員

パブコメの中でも「自分は何ができるのか」という意見があったが、そういった意識を持っていること自体が素晴らしいので、そこに対して「何かできるかもしれない」という事例になると思うのでぜひよろしくお願ひしたい。

○梶田会長

改定案ということで、市としても事業者にご協力いただきながら様々な事業を進めているところであるから、さらなる推進力を持って連携して進めていただきたい。

その他発言がなければ本日の議事はこれをもって終了とする。

(以 上)